

— 三重県建設技術センター —

## 防災・減災のために 地域防災講演会への取り組み

### 1. はじめに

三重県建設技術センターでは、公益目的事業の一つとして、県民及び教育関係者などを対象に、公共の福祉の増進に寄与する一般知識の習得並びに南海トラフ巨大地震に備えるため、防災・減災に関する啓発を目的として県内各地で地域防災講演会を毎年開催している。

本誌において、昨年度に開催した伊賀市と尾鷲市の二会場のうち、尾鷲市会場の模様を紹介する。

### 2. 地域防災講演会 尾鷲市会場

昭和東南海地震の発生から75年の節目となる令和元年12月7日に「3・11を学びに変える」と題して尾鷲市中央公民館で開催した。

講師には東日本大震災で被災し、震災伝承活動を行っている宮城県石巻市の佐藤敏郎さんと永沼悠斗さんを迎えた。二人は被災時の様子、家族との別れ、防災の大切さなどについて語った。

会場には、小学生から年配の方まで幅広い年齢層の地元尾鷲市民や近隣市町の住民をはじめ、県内外から行政職員、教職員、自主防災活動リーダーら約120人が集まり、講師の話に熱心に耳を傾けた。



熱気にあふれた講演会の様子

元中学校教諭の佐藤さんは、大震災当時石巻市立大川小学校6年生の次女を亡くし、同校で児童・教諭ら84人が犠牲となったことや大津波の様子などを語った。「防災活動は地域の皆さんが助かって喜ぶことを想定して、取り組んでほしい」と佐藤さんは述べた。

大川伝承の会で語り部をしている永沼さんは、高校1年生で被災し、当時大川小学校2年生の弟を亡くし、仮設住宅で約8年暮らした体験や、学生語り部の活動を紹介した。自分自身の体験をもとに「家族や地域でどこへ避難するのか、あらかじめ決めておくことが大切」と語った。

今回は、熊野灘沿岸という地域特性から大津波への関心度は高く、講師との意見交換は予定時間を超過するほど大変盛り上がり、会場は感動の熱気に包まれた。また、参加者からは、「防災の意味を再度考えた。学校防災はきちんと見直すべきと感じた。」「期待通りの講演だった。地域の防災訓練に活かしたい。」など数々の声を頂いた。



参加者と意見交換する講師

今回の地域防災講演会の模様は、取材に訪れた報道機関により、当日夜のテレビニュースで放映されるとともに、新聞各紙にも掲載された。

### 3. おわりに

広く県民の皆様に関心する啓発を行っていくことは、公益財団法人としての責務と考える。三重県建設技術センターでは、ここに紹介した地域防災講演会以外にも地域・学校防災出前講座等も実施しており、今後もこれら講演会、出前講座等を通じ地域に貢献していきたい。

最後に、新型コロナウイルス感染症の拡大が一日も早く終息し、従来どおり講演会、出前講座を開催できる日が来ることを願っている。

公益財団法人 三重県建設技術センター  
研修・調査部 乾谷 安則